



鳥取こども学園 学園だより

第43号
2018年6月1日

○発行
社会福祉法人
鳥取こども学園

鳥取市立川町5丁目417番地
電話 (0857) 22-4206
http://www.tottorikodomogakuen.or.jp/
題字 尾崎悌之助

桃太郎とともに不条理を生きる

児童心理治療施設 鳥取こども学園希望館

館長 花川 治 応

昔話の「ももたろう」は親と離れて学園で生活する子どもたちそのものだと思っ
ています。大きくなると自分がなぜここにいるのかどうして親でなくおじいさん、
おばあさん（他人）に育てられているのか、この先自分はどう生きればいいのかと
疑問を感じます。その答えをどうしても探す必要に迫られるのだと思います。もも
たろうもきつと思いついで荒れた時期もあったことでしょう。ももたろうは鬼退治
にいくという命がけの道を選びます。そして一人ではなくお供に犬、猿、雉を仲間
にできたので成功しました。このお供は生きる上で大切なものの例えとして、犬は
誠実、猿は知恵、雉は勇気だとも解釈されています。私が一番感心したお話です。
我々施設職員も桃太郎のおじいさん、おばあさんのように、学園の子ともたちの
疑問（とよりより不安といった方がよいかもかもしれませんが）に寄り添い、一緒に犬
と猿と雉を探すことが大きな役割ではないかと思っています。

●不条理を抱えて生きる姿こそ世の光である。

郷土の先人 糸賀一雄氏の主張

「この子らを世の光に」のメッセージで有名な地元鳥取市出身の糸賀一雄氏が県立皆成
学園で講演されたことがあり、講演録を読む
機会がありました。私なりの解釈ですが、不
条理を抱えて生きる者が単に支えられて生き
るのでなく、支えを受け入れつつ外の世界に
も働きかけてお互いに響き合っていく。その
営みこそが「世の光」（人にとって最も大切
なもの）である。客観的な整備だけでは不十
分で、この主観的な整備を訴え続けることが
大切なのだとのメッセージだと理解していま
す。さらに糸賀氏は「ア割の国民が無駄だと

思っていてもそれでもやるのがヒューマニズ
ムであり、それは実践の中で考えることであ
る」といわれています。不条理を解決してあ
げるのでなく、抱えながら一緒に響き合う伴
走者（伴奏者）になれるよう心がけたいと思
います。

●とっとり型児童福祉は最先端

もう十数年前になりますが県内で開催され
た社会福祉研修会で、講師から「国が押し進
める全国一律の福祉施策にとらわれてはいけ
ない。地域の実情に合わせて柔軟に取り組む
ことが必要です。田舎の方が本来の日本の姿
です。鳥取だからやれることをめざしてくだ

さい。」と言われたことが強く心に残ってい
ました。

確かに私自身も全国の児童相談所の会議に
出た際に、切迫した都会の事情を優先したか
のような対応策が全国一律に進められること
になんとも違和感も感じていました。子育
ての不具合の発見や指摘にとどまっては不安
をおおるだけであり、真に必要なのは具体的
な支援とのセットであると思っています。

そして同時に、鳥取県には高い理念を持つ
て養育支援を実践している人たちの集団（＝
船）があり、子どもの思いを大切にしながら
生活に即した具体的な支援を時代に合わせて
独自に作り上げてこられた事実があることを
改めてありがたく、誇らしく感じました。

もちろんこれは現場の努力だけではなく、
多くの心あるボランティアの方々や行政サイ
ドからの独自の仕組みによるバックアップが
あったの結果として今がある訳で、全国の関
係者と話をしてみると、実は鳥取県は現場と
行政と地域がチームとしての意思疎通がス
ムーズにできて、共通の理念をもつて取り組
めている最先端を進んでいるんじゃないかと
感じるようになりました。

今年度もとっとりだからできる「とっとり
型児童福祉」の発展をめざして、皆様の御理
解、御指導ならびに御協力をいただきながら
日々取り組んで参ります。どうぞよろしくお
願います。

◆ネイティブアメリカンのことわざより

「こどもは村の宝。子育ては村の責任」

法人本部

理事長 藤野興一 記

① 2020年度からの次の10年に向けて子どもの権利・最善の利益を守る闘いの先頭に立つ

② 「新しい社会的養育ビジョン」(新ビジョン)を「日本型社会的養育」として、現実路線への転換を目指す。

*鳥取こども学園は、慈善事業の時代から、子どもの人権を守る者として、日本の社会的養育分野のパイオニア的役割を担ってきた。2011年7月の「社会的養育の課題と将来像(課題と将来像)」及び「日本型社会的養育」のモデルとなっている。

*2015年4月から「課題と将来像」の中核部分である職員配置増、小規模ケア促進、職員の待遇改善、入所児童の大学進学等の措置費対応が実現、永く動かなかった岩盤をやっと動かすことが出来た。

③ 「新ビジョン」は「課題と将来像」の到達点を無視した机上の空論である。現実路線への転換が求められる。社会的養育は長い間、職員配置等、大舎制しか出来ない仕組みだった。だが、東京都は美濃部都政時代から全ての施設を定員8名以下の小規模

ケアとし、全国のキリスト教系民間施設でも小舎制養育が先駆的に取り組まれた。その上「課題と将来像」が組み立てられたのである。

*「新ビジョン」のモデルとされている欧米諸国は既に里親委託率75%以上を達成している国々である。その里親制度については、2013年9月に大阪で開催された世界里親大会での当事者の悲痛な訴えを忘れてはならない。そこでは、里親による「ドリフト問題」等、惨憺たる状況が報告されている。

*そのことを何ら検証することもなく日本に当てはめたのが「新ビジョン」である。日本は施設を無くして里親へ移行した西欧諸国の道を選びたいとはいかない。「日本型社会的養育」として独自の道を歩みたいと願う者である。

④ 今期(2015~2019年) 1期5年の残り2年間の課題 *産休育休が続出し、産休育休明けに実子を抱えて勤務出来るよう「企業内保育所」と「病後児保育所」を創設したい。2018年度において補助金申請し、建物を建て、2019年度に開設を目指す。

*家庭復帰や里親委託・養子縁組を積極的に進めた結果、入所児童が減少し、ショート・トワイライトステイ・一時保護が増加している。又、地域児童家庭支援強化が求められている。その対応策として園内小規模ケアホームの一部を一時保護所へ転換し、地域小規模児童養護施設「あかりホーム」を廃止、修立校区内に分園型小規模ケアホーム「あかり」を作ることにした。

*2018年度、2016年局長通知「児童養護施設等における一時保護児童の受け入れ体制整備について」の一時保護所を乳児院と児童養護施設等の2か所開設することとした。

*県社協の「生活困難者に対する相談支援事業『えんくろり事業』」に主体的に参画し、子どもの居場所「たちかわ子どもクラブ」を運営することとした。

⑤ 公的制度が揺らぐ中、法人の一層の財政基盤強化が求められている。この度、改正社会福祉法による組織変更に伴い、鳥取こども学園後援会長に「ぎんりんグループ」の村上和良、亜由美夫妻に就任頂いた。多くの方のご支援をお願いしたい。

児童養護施設 鳥取こども学園

大きな役割をいただくにあたって



副園長 山本 隆史

平成30年4月1日付けで鳥取こども学園副園長を拝命いたしました。

自己紹介を兼ね「好きなこと・もの」にちなんで、この大きな役割に関する私の考えを述べさせていただきます。

①城の石垣を観る：城の「石垣」の積み方には種類があり、「野面積み」「打ち込み接ぎ」「切り込み接ぎ」等数種類あります。自然の石を積んでいくのが「野面積み」で、職人が石の形を整えて隙間なく積んでいくのが「切り込み接ぎ」です。見た目は後者の方が綺麗です。ありのままの石を積んでいく「野面積み」は見た目は「つつ」して

いますが、組み合わせ方に非常に高度な技術が必要で、地震や水害等の災害にはめっぽう強いメリットがあります。学園職員チームもマニュアルによってきちんと整えられたものではなく、個々の個性を活かしながら、その組み合わせにより強固なチームワークが取れる集団でなくてはなりません。

それらを「調整」する役割が副園長にあると考えています。

②歌舞伎鑑賞…これも歴史好きから転じて歌舞伎が好きになったわけですが。今年の正月から「高麗屋（松本幸四郎家）」の3代が襲名披露公演を行っています。襲名とは、ただ単に名前を受け継ぐだけでなくその名に伴う「家の芸」「大切に継承してきた精神」を受け継ぐことだそうです。副園長は園長の補佐のみならず、学園創設以来先人たちが110余年大切にしてきた理念を受け継ぎ、次の世代に継いでいく大切な役割があると考えています。

③ジョギング：腰を痛めたのをきっかけにダイエットのためにジョギングを始めました。平成24年から7回連続で鳥取マラソンに出場しています。いずれも制限時間の6時間ギリギリですが、「完走」にはほど遠い「完歩」なのですが、42.195km先のゴールになんとかたどり着いています。今、「社会的養護」は大きな変革期を迎えています。いとも簡単に欧米に倣い、現実離れた数値目標が掲げられています。目の前の子どもたちの最善の利益を追求し、現実に対応した「日本型社会的養護」の具現化を一步一歩着実に進めていかなければなりません。その歩みを進めていく大きな役割が私たちの世代にあると考えています。

職員自己紹介

◆さくらホーム



保育士
竹本 佑香

4月よりさくらホームでお世話になっています。社会人1年目でわからないことが多く、「迷惑をおかけすることがある」と思いますが、笑顔で精一杯頑張っていくのでよろしく願います。

◆たんぽぽホーム



保育士
太田 育美

はじめまして、4月からたんぽぽホームでお世話になっている太田育美です。至らない点がたくさんあるかと思いますが、子ども達に寄り添い、一緒に成長できるように職員を目指して日々頑張っていきたいと思えます。

◆ひまわりホーム



児童指導員
佐藤 瑞基

初めまして！今年の4月からひまわりホームに来ました。佐藤瑞基といいます。出身は、出雲大社で有名な島根県出雲市です。まだわからないことも多いで

すが、みなさんと一緒に頑張っていきたいと思えます。

◆ふじ・ひまわりブロックフリー



保育士
片山 晴太

昨年はみどり園におり、今年から学園にやってきた片山です。日々楽しく過ごせるように頑張っています。分からない事だらけなので皆さんに頼る事が沢山あると思いますが、よろしく願います。

◆つくしホーム



児童指導員
城下 唯

つくしホームの城下です。学園にまだ来たばかりでわからないこともありすが、これからたくさんみなさんと楽しい時間を過ごしていきたいと思います。よろしく願います。

◆すみれホーム



保育士
沖田 恭子

親になり、子育てをし、転職をする中で、やはり子ども達と関わっていく仕事は楽しいと思う毎日です。組織の大きさ、歴史の深さに圧倒されながら、今の自分のできる事を一生懸命に取り組んでいきたいと思います。

◆なかよし園



支援員
寺坂 桃

毎日、変化が感じられる環境の中で、子ども達の成長を近くで見られる喜びや行動・言葉・発想に驚きながら楽しんでいます。常に勉強になる事はありがたいので、一日一日を大切に子ども達と関わってまいります。

◆地域小規模フリー



児童指導員
上月 信乃武

4月より地域小規模のフリー職員として働かせていただいている上月信乃武です。3つのホームで上手くやっていけるのか等不安はありますが、様々な子ども達と関われる楽しさもあります。よろしく願います。

◆こどもの家あかり



支援員
懸樋 幸

4月よりお世話になっています。まだ不慣れですが、子ども達や職員の方々に喜んでいただける食事作りを心掛け、安らぎを感じられる存在でありたいと思っています。よろしく願います。

乳 児 院

鳥取子ども学園乳児部

菜の花に想いを寄せて

副院長 竹森 香理

乳児部看護師となつて今年で7年目、副院長を拝命いたし2年目を迎えました。鳥取子ども学園乳児部では、子どもたちの健やかな成長・発達を第一に考え、またご家族の方々の思いに寄り添いながら共に子育てをおこなつていく姿勢を基本としています。子どもたちの大切な時期に携わるこの責任の重さを痛感しそれを小さな幸せと感じつつ日々精進しているところです。

子どもたちが毎日のように遊ぶ院庭に、今年は菜の花が咲きました。3月下旬、春の陽気と思えないほどの気温に、菜の花のつぼみが一気に開き院庭やテラス、時には室内までも花の香りが漂いました。春の穏やかな日々、いつもの院庭、昨年の春とちよつとびり違うのは菜の花とその香りかなと感じました。



のおいちゃんとおばあちゃんが、お花のポランティアさん（お花のおいちゃん）と呼ばせてください」として来られるようになり、春に咲く菜の花や菜牡丹、キンセンカなどの苗を子どもも職員と一緒に植えてくださいました。（ほんとんど、お花のおいちゃん、がやってみてくださいました。）ある職員は『菜の花の色のお花が咲くのかな？』と子どもたちに言葉をかけながら優しく土をかけていました。

春が来るまでの数か月、どんどん伸びる茎が風に大きく揺れ折れそつたなど心配しているとお花のおいちゃんがやって来て、添え木をあててくださったりと、院庭の花たちに気持ちを送らせて下さることにとても温かさを感じました。春になり、空に向かって真つすべ伸びた茎の先に真つ黄色な花を咲かせた菜の花。花の蜜の「馳走に集まってくる蜂たちに『蜂さん、おはね〜』』
『さうだね。ご飯食べてね。』
『さうだね。おうちっ。』
『さうだね。みんな一緒にだね。』
『さうだね。』
と笑つ子どもも職員。始めは蜂を怖がっていた子どもたち。職員とのやり取りで安心したようではらくの間、蜂の姿を眺めていました。その姿を開設当初より抱っこポランティアとして来てくださったお花のおいちゃんが見守つてくたさる、ほっこり心が温まる時間が流れました。そのおばあちゃん、この春で11年間の抱っこポランティアに11オドを打たれました。

長年にわたり、変わることもなく子どもたちの傍に居て下さったおばあちゃん。週一回、乳児部の子どもたちのお世話にやって来てくださいました。ほとんど欠かすことなく通い続けてくださる、たくさんの子どものおばあちゃんにいてくださったこと、時には私たち職員も甘えさせてくださったこと、おばあちゃんのお言葉をたくさん伝授してくださったこと、子どもたちにとって変わらない環境は安心や安定を保障します。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。



菜の花の花言葉には『快活な愛』・『明るさ』・『豊かさ』・『財産』・『競争』・『小さな幸せ』と5つの言葉があるようです。ほとんどが、菜の花のイメージがつかみませんが、その中で『競争』という花言葉はピンときませんでした。それぞれが元気に咲き誇つていて共に成長していきつていふ意味があると知り青空に向かって真つすべに咲いている姿が元気に遊ぶ子

どもたちの姿と重なりとても愛おしく感じます。

春に咲く菜の花の鮮やかな黄色と緑色の「コロボレション」、甘い花の匂い、さわさわと花を揺らす風の音、優しく抱っこされた肌の感触のように子どもを包み込むすべての心地よい感覚。子どもたちがそれぞれの人生をいとなむ中で、春の陽気に、菜の花の香りに…心穏やかな時間をふつと思いついてくれることと思います。心地よいその感覚は、身体(脳幹)の奥底で記憶され人と繋がる根っここの部分となります。私たちは子どもたちと共に育ちながら心地よい感覚を笑顔と共にたくさん注ぎ続けたいと思っています。

子どもたちが出会ったすべての方に感謝し、これから一緒に元氣いっぱい遊んで、食べて、寝て。泣いたり、笑ったり、時には怒ったりと心豊かに過ごしたいと思っています。たくさんのお会いも楽しみにしています。これからも乳児部をどうぞよろしくお願い致します。

(追伸) たくさんの花を付けた菜の花は種が収穫できそうです。来年の春も菜の花が院庭に咲きますね。次は、夏の朝顔カーテン作りに、お花のおじいちゃん、の登場です。

さあ、みんな、朝顔を育てよう！

職員自己紹介

◆どんぐりホーム



保育士
新野 みさき

春から乳児部どんぐりホームで保育士として働かせて頂いています。一日でも早く環境に慣れ、職員の方と連携しながらたくさんの子ども達に愛情を注いでいきたいと思っています。また長所である笑顔を持ち味に一生懸命頑張ります。子どもたちのパワーに負けないように元気に楽しく一緒に成長していきたいと思っています。よろしくお願致します。

◆かりんホーム



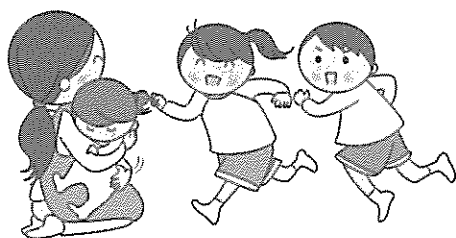
保育士
藤井 優衣

4月より乳児部のかりんホームでお世話になっております藤井優衣です。慣れないことばかりで迷惑をお掛けする事が多々あると思いますが、少しでも早く園での生活や環境に慣れ子ども達に寄り添っていききたいと思っています。そして、職員として日々成長していきたいと思っておりますので指導のほどよろしくお願致します。



事務員
鈴木 謙太郎

4月より乳児部事務員としてお世話になっております。至らない点も多いと思いますが、積極的に子ども達や職員さんと接し、色々指導いただきながら成長していければと思います。子ども達にとつてよりよい環境づくりを目指し日々努めて参りたいと思います。よろしくお願致します。



児童心理治療施設
鳥取子ども学園希望館



館長
花川 治応

2018年4月1日より、西井館長の後を引き継ぎ、5代目希望館館長として着任しました花川治応と申します。どうぞよろしくお願致します。

私は昨年3月鳥取県福祉相談センターを退職するまで、県の福祉職員として子どもや女性、障がい児・者の福祉に携わってきました。そのころに見えていた鳥取子ども学園グループは、私にとつては地域の児童課題の実践に取り組み心強いパートナーであり、深い知恵の集まった困ったときの知恵袋として頼りになる箱船のような存在でありました。

4月から私も同じ船に乗り込み、乗組員の一人として加わらせてもらいます。私の今までの経験や知識が、希望館及び子ども学園の子どもたちや志を持つて関わっておられる方々に少しでもお役にたてれば幸いです。

(僕のババはババ5歳)

私の好きな絵本です。子どもを思わず怒鳴って傷つけてしまったババが勇気を出して子どもに謝るというストーリーです。子どもが5歳になった時はババとして5歳にしかなくなってない。子どもを育てることが親としても育てられることであることを教えてくれます。はじめから子育てが上手な人はいないので。

子どもを育てることは人生で最も大切な作業でありながら、最も過酷で大変な作業であると改めて感じます。子どものために自分の苦手なことにも立ち向かわなければいけない。我慢もしなければいけない。そういった体験のおかげで今まで避けてきたものを受け止められるようになったり、新たな世界が広がるのが積み重なって自分も少しは大人になったと思えるような気がします。

(子どもに映される自分の生き様)

大人は決して子どもに教えることばかりではなく、子どもに教えられたり、気づかされることの方が多いと思います。その意味で人は対等なのだと感じます。子どもは大人の言うことを聞くのは上手ではありませんが、大人のまねをするのは上手です。子どもの反応(こ)とはや

行動や表情を見ると「自分は本当は何を大切に生きてきたのか?」「何を避けて生きてきたのか?」といった自らの価値観の押しつけや覚悟のなさを否応なく突きつけられる気がするからです。それを自覚し痛みと共に受け入れていく姿を見せることが希望館で生活する子どもたちにとっても大切な事なのではないかと考えています。

子どもにとって安全と安心を確保するのは大前提として、子どもと職員と共に悩みながら、少しずつ人生のよきモデルを示せるように努力していこうと思っています。

職員自己紹介

◆通所部でくく



保育士
大前 裕美

通所部でくくくの大前裕美です。子ども達一人ひとりの心に寄り添いながら、その子らしく歩めるよう心を尽くしていきたいと思います。そして私も一緒に成長したいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

◆さつきホーム



児童指導員
兼平 剛

はじめまして。今年度からさつきホームでも達と一緒に生活させていただくことになりました兼平剛です。子ども達の生活の中で日々成長していきたいと思っています。よろしくお祈りします。



保育士
北浜 苗野

今年度からさつきホームで働かせていただきます。嬉しい時は一緒に喜び、難しいことは一緒に悩み、子どもたちと共に経験し日々成長していきたいと思えます。よろしくお祈りします!

◆のぎくホーム



保育士
近藤 瑞姫

はじめまして。4月からのぎくホームで働かせていただくことになりました。わからないことも沢山ありますが笑顔をお忘れず精一杯頑張り、成長していきたいと思えます。よろしくお祈りします!

◆こぼとホーム



保育士
三輪 美早紀

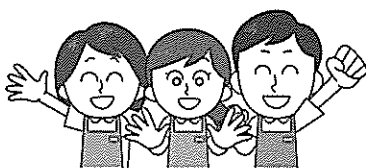
今年度からこぼとホームの職員になりました。子どもたちと共に過ごしていく中で、子どもたちと一緒に様々な経験を通し、日々成長していけたらと思います。よろしくお祈りします。

◆女子ブロックフリー



保育士
山本 実里

初めまして。この度、希望館女子ブロックのフリー職員となりました山本実里です。子どもたちとの関わりを大切に、成長していけるよう頑張ります。これから宜しくお願い致します。



保育所

鳥取みどり園

一人ひとりを大切に

園長 中村 秀子

満開の桜の下、今年も新たに24名の新入児を迎え平成30年度がスタートしました。子ども達のにぎやかな声で今日も一日が始まります。進級した子ども達もまたひとつ大きくなった喜びと新しいクラスでの担任や友達との出会いにわくわくドキドキ。「いっしょにしよう!」と遊びに誘ったり、天候の良い日には園庭や近隣を散歩し、川辺にいるカモや軒先にあるツバメの巣を見つけて指を差し知らせたりしています。また、年下の友達に顔を近づけてニコニコ微笑んだり泣いている友達の手をそっとなでたりする姿も見られます。入園当初は不安な表情でいっぱいだった子どももいつしかかわい笑い笑顔や表情をみせてくれるようになりました。

さて今年度、幼稚園教育要領ならびに保育所保育指針が改定され、4月1日より施行されました。この改定の背景には共働き世帯の増加や急激に増加した児童虐待問題などの子育て家庭を取り巻く環境の変化と0〜2歳児を中心とした保育

所利用児童数の増加等、保育所利用状況の変化という2つの社会情勢の変化によるものと考えられます。そして今回の改定では幼稚園、認定こども園、保育所が幼児教育の機関として示されました。つまり、保育所であれ、認定こども園であれ、幼稚園であれどこに行っても同じ幼児教育を担っている施設として質の高い保育を受けられることが求められています。しかしその根底には「養護と教育」を担う保育所本来の機能があることに何ら変わりはありません。むしろ「養護」こそが教育の基盤となる「根っこ」の部分であると思います。私達保育者は子ども達が今をよく生き、さらに未来をつくる力を身につける「生きる力」を育てるため、この「根っこ」を大切に育てていきたいと思えます。保育所は子どもが生活時間の大半を過ごす場所です。子ども達にとって保育所が居心地のよい場所となるよう安全、かつ安心できる保育環境を整えることが必要です。そして、特定の保育士とのかかわりの中で愛着関係を築くことが子どもの人格を形成するうえで最も大事な要素となっていくと思います。今回の改定でも特に重視されているのが0歳〜3歳未満児の保育です。よく「三つ子の魂百まで」と言われますが、乳幼児期の育ちがその後の人格形成に於いて大きく影響を及ぼすことを考えると私達保育士が持つ役割の大きさを再認識しな

なくてはなりません。法人の理念である「愛」の精神を心に刻み、子ども達一人ひとりのありのままを受け止め、心を通わせながら園生活のなかで様々な遊びや人とのかかわりを通して「遊び」「学び」「生きる力」を培っていきけるよう、更なる保育の充実を図っていききたいと思っています。

職員自己紹介



保育士

中本 真穂

りず組の担任をさせていただく中本真穂です。子ども達が笑顔で過ごせるよう頑張りたいと思います。よろしくお願ひします。



保育士

村田 真里

りず組の担任をさせていただくことになりました村田真里です。一日一日を大切にしながら子どもたちと信頼関係を築いていきたいと思っています。これから一年間よろしくお願ひいたします。



保育士

森田 菜

うさぎ組担当になりました、森田菜です。子ども達の笑顔を大切にしながら日々関わっていききたいと思っています。これからどうぞ宜しくお願い致します。



保育士

岩本 和彦

うさぎ組担当になりました、岩本和彦です。これまでの経験を生かしながら子ども達と楽しく過ごし、元気いっぱい笑顔で頑張りたいと思います。



保育士

杉野 裕子

にじ組の担任になりました、杉野裕子です。子ども達のやる気スイッチをどんどんみつけていきたいと思っています。笑顔をお忘れず毎日楽しみます。よろしくお願ひします。



診療所
「リス」の発達クリニック

「リス」と「こころ」

事務員 由井 みどり

こんにちは、「こころ」の発達クリニック事務員の由井です。当クリニックは今年度で、開院から8年目を迎えました。現在では初診受付を18歳までの子どもさんとさせていただいており、「予約いただいても数か月お待ちいただいでのご来院となっております。クライアントさんやその「家族の方には不便をおかけしております。しかしそれだけ、医師が一人一人を大切に、丁寧に診療を行っておりますので、ご理解いただければ幸いです。」さて、「こころ」の発達クリニックには、たくさんリスが住んでいます。玄関、受付、待合室、そして診察室にも。いろいろ、伺っているのでしょうか？なにかの機会でご来院いただいた際は、ぜひ数えてみてくださいね。しかしなぜ、こんなにリスだらけ？それは、当クリニックの院長がリス好きだから、なのです。ちなみに、「こころ」の発達クリニックのシンボルマークも、ハートを抱えたリスさんです。そして院長のリス好きを知っておられる方々が、どこかでリスを見つけたら

びに、捕まえて連れてきてくださいます。有難いことです。そうやって、実に様々な種類のリスさんが仲良く共同生活しています。動いてくれないのがちょっと残念ですが、クリニックが不思議と癒される空間なのは、もしかするとこのリスさんたちが織り成すパワーかもしれませんね。パワーストーンならぬ、パワーリス、かもしれません。ご利益があるかも？

「精神科」と聞くと、少し敷居が高い、入りにくいイメージがあるのではないのでしょうか。私はこのクリニックで働き始めた当初、普通の病院のようではなくてアットホームな雰囲気、意外だなぁと感じたことを覚えています。でも、来院される方にとっても気を遣わないといけないのでは…と、毎日身構えて仕事をしています。しかしそれも間違っていました。日々受付としてここに座り、クライアントさんと時折、なんでもない話したり。そうしていると、多くの方はい

シンボルマーク



クリニックの玄関に住むリスさんたち

たって普通に生活をしているのだ、私とやら変わらないのだと、気づかされた。それは私自身の、精神科、や、精神科に来る人、のイメージをすっかり払拭してくれました。もちろんクリニックのスタッフとして留意しなければならぬことはありますが、今では身構えずに自然体でいられるようになりました。

「こころ」は、「こころ」が集まる場所なんです。シンボルマークのリスさんのように、さまざまな悩みやしんどさを抱えた「こころ」をあなたたくく包み、安らげてあげることができる、そんなクリニックであられたらいいなあと思っています。今後ともご支援ご協力のほど、よろしくお願ひいたします。

児童家庭支援センター
子ども家庭支援センター
「希望館」

所長 山下 学

平成29年度の年間外来相談件数は、電話相談も含めるとほぼ3千件近くに上ります。人口20万人弱の中核市に所在する児童家庭支援センターとしては、決して少なくない数です。平成11年11月に開所以来、相談件数はずっと右肩上がりに伸びていますが、近年の傾向として発達障

がいを伴っているであろうケースの増加が拍車をかけます。

センターでは相談を受け付けると、インターネット面談により大まかにケースを見立て、必要に応じて子どもをより正確に理解する為、各種心理検査を実施します。検査の内容は、知能検査、性格検査、心理投影検査等多岐に渡りますが、得られたデータを多角的に分析し支援に役立てます。

相談を進める中で、先述の通り子どもが発達障がい特性が浮き彫りになるケースが増えていますが、相談保護者の主訴にはない問題が炙り出される場合もあります。例えば、当初子どもの問題として語られていたものが、実は親子関係の問題であったり、保護者夫婦間の問題或いは保護者と学校との問題に子どもが挟まれているなどです。そうした関係性の糸のもつれが、子どもの状態や症状に映されているケースが少なからずあるのです。

しかし、長年をかけてもつれた糸は、そうそう簡単にはほどけません。それなりの時間を必要とします。時には相談が途切れてしまうこともあります。殆どが相談に留まり、それぞれ問題に向き合おうと努力して下さっています。それは「あの日の家族を取り戻したい」一心で、そうしておられるのかもしれない。諦めずもつれた糸の一本一本をほどく努力を重ね、家族それぞれの思いが相

互に伝播し始める頃、ゆっくりと良循環の渦が動きだします。そうなれば家族の未来を創るのはその家族自体です。

決して簡単な道ではありません。しかしながら、根気よく相談者の心の声を聴き分け、諦めない心を支えつつ良循環の渦を作り出す助け手として寄り添う、そんな子ども家庭支援センターでありたいと願っています。

★家族・子育てについての悩みや、子どもに関するあらゆることの相談に応じます。相談料は無料です。

●電話相談

月曜日～金曜日 朝9時～夜12時

(緊急の場合は、休日、祭日、時間外も24時間対応します)

●来所相談

開所時間

月曜日～金曜日 朝9時～夕方6時

専門の相談員が対応します。

里親支援とっとり

池田のお父さんとの思い出

所長 遠藤 信彦

2月に、鳥取県里親会東部部会の事務局を長年務め、会の発展に大きく寄与さ

れた池田晴隆里父が、闘病の末、逝去されました。十年近く前のこと、それまで児童相談所が受け持っていた里親会事務局業務が、里親個人に移管されることになり、大変な引き継ぎの作業がありました。自ら進んで引き受けられ、様々な機関とのコーディネートに奔走されました。そして、里親自らが会の活動を企画し、運営することの有用性を、身をもって実証されました。

功績は語り尽くせません、多くの方が知るところですが、僕個人の思い出は7年前、初めて東部部会の総会に出席した時です。たどたどしく当所の業務を説明したところ、「おまえに、本当に里親支援が出来るのか? わしは思わん!」と机を叩かれるという手荒い洗礼を受けました。その日からというもの、毎日のように来所され「あれはどうなった?」「これはどうするんだ?」「と詰問されました。様々な事業と一緒に取り組み、都度、酒を飲み交わし、意見を交わすにつれ、心置きない関係になっていきました。僕は、こつこつ行政事務的な業務が初めてでしたので、不備や、配慮が足りないことが多々あり、関係者からお叱りを受け、凹むことも多かったのですが、一年と少し経った頃、「このことを話したところ、あれだけ」わしは思わん!」「こつこつ」と詰め寄っていたお

父さんが「いや! おまえは! ようやっとなる!」と下をさしました。

自動車整備士の経験を活かし、子どものおもちゃを直したり、作ったりしていらっやいました。僕も仕事を嗜んでいますので、作業を見学していると、「この幼児ちゃんが乗るおもちゃの車は、負荷がかかる部分をもっと補強せんといかん! 幼児ちゃんの手にあたって怪我せんよう、隠してアルミの芯棒を入れよう!」「このぞうめん流しの竹は、食べるとき子どもが触るから、かどのバリをとつとかないかん!」と、工夫を解説して下さいました。九州男児らしい、豪放磊落な物言いに反して、実は、大変細やかに、子どもの育ちと、人と人との関わりを見つめていらっやる方でしたので、まるで、隠して芯棒で補強するように、竹のバリを削り滑らかにしておくように、人知れず、たくさんの方を気遣い、間をとりにいらっやいました。一人一人と丁寧に、膝を突き合わせて熱く対話されるその生き様は、多くの方から信頼を寄せられ、葬儀の際「子ども等にも笑顔と安らぎを与えんと熱き想いは仲間輪広げ!」とうたわれました。在りし日の、あの人情溢れるご声をお憶ひ、学んだ教えにもこのころはないか日々かえりみながら、業務に取り組んでいます。

自立援助ホーム 鳥取フレンド

鳥取フレンド・鳥取スマイル 統括家長 山中 友子

平成30年度、鳥取フレンドは、男子4名、女子3名、うちOB2名の入居者でスタートしました。

自立援助ホームの役割は、入居者が社会、地域の中で生活していけるよう支援する事であり、その為に、安心できる環境の中でスキルを身につけていくことが大切だと考えています。

最近のホームの様子はというと、生活のリズムが定まってきた人は、その人ならではのありますが、軌道に乗り、月1回の給料の仕分けができ、振り返りの話の中で「ああでもない」「こつこつでもない」と話し合いながら、経験を積んでいくことができています。また、入居して間もない人は、ホームの手伝いをしながら、生活リズムをつくっていくところから始めています。入居前の生活環境は、それぞれ異なりますが、家庭でも学校でも多くの傷つき体験をしてきているという実態は、共通だと思えます。それまでの、自分にとっての当たり前が当たり前でなく、我慢になり、『自立をするため』と理解して入居し、当面、頑張っ生活をするのですが、人間関係にヒリヒリし、

要求が通らないとイライラし、物に当たったり、人に当たったり…。本人もしんどいし、生活を共にするまわりの人たちも、しんどくなる。そういう日常があります。職員として、どのような支援ができるのか、と考えます。寮長を中心に方針を共有し、日々の状況を引き継ぎつつやってきていますが、職員も人間なので個性があります。対応が正しいか正しくないかという事ではないけれど、入居者に対してどう伝えれば良かったのか、と悩みながら生活をしています。

OB・OGの存在も入居者には良い影響があります。トラブルの仲裁に入ってくれたり、ここで生活した経験から、アドバイスしてくれたり、自分自身の生い立ちから話して、考えさせてくれたり。時には反面教師的なこともあります。事実が伝わるので、社会人としての心得になると思います。

考えるこしかめつ面になりますが、やはり安心して生活できる環境を作りたいと思います。入居者に対して迎合ではなく、目的の一助となるステップを歩んで右らう為に、工夫する事を大切にしようと思います。フレンドを退居後、社会で生活する時に、ここでの経験が少しでも活かせる良いなと思います。

最後になりましたが、自立援助ホーム部門の運営に「理解・」支援いただきましてありがとうございます。今後ともよろしくお願い致します。

自立援助ホーム 鳥取スマイル

指導員 徳井久美子

現在、鳥取スマイルは5名の男子寮生が共に生活しています。その中で、スマイルに長く居る彼を少し紹介させて頂きます。

彼は17歳でスマイルに来ました。そして現在は20歳になり、かれこれ4年目になります。当時は、暴力・逆ギレといった感じで入居してきて、おまけにひきこもりと三拍子そろった感じでした。固定観念がすごく強く、職員も彼もお互いに探り合いの状態が何ヶ月間あった様に記憶しています。

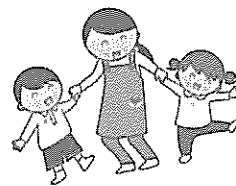
そんな中、スマイルで他寮生に多くの問題事案が発生し、次々に退所してしまいが寮生が彼ひとりという時期がありました。まさに、彼にとっては天国だったでしょう。人こみや人前に出て何かをすることが苦手というよりは嫌いということから、最初は良かったのです。しかし、だんだん寂しくなってきたのかもしれない。職員が話し相手と独り占めできる感じで楽しそうでしたが、何ヶ月か経った時、「誰も入ってこないか？」と口にしていました。その後、入居が次から次へと入って来たのは良かったのですが、そ

こでもトラブルがありました。そんなことを繰り返していく中で、自分の中でも何かあったのでしょうか。人の意見も少しづつ受け入れられるようになってきて自分自身も楽になってきた様でした。

学校も「行きたくない。」と言っていたのに学校にも行き、来年の春には卒業予定です。自動車の運転免許も取得して、現在は、仕事の方も順調に進んでいます。しかし、将来の事は、まだ未知数で彼自身もどうしていいのかわからず、ほんやりとしている感じのようです。根本的な性格は変わっていないとは思いますが、彼にとって色々な人との出会いで少しずつ気持ちの中で変化があったのかもしれない。全員が全員うまくいくわけではなく、自分の気持ち次第でどうにもなるわけでもありませんが、頑張りうという気持ちを持っていた彼だからこそ、やり遂げたのかもしれない。今も尚、職員と派手な口喧嘩をしますが、それは昔のような口喧嘩ではなく、お互いの事がわかった上での口喧嘩なので、それが終わった次の瞬間からは、何事もなかった様に話をしていく感じでした。曲がった事が嫌いな彼ですが、一步一步将来に向かって歩んでいます。彼だけではなく他の寮生も全員、将来に向けて頑張っています。

私達職員が出来ることは、彼らにとってはほんの少しかもしれませんが、今、そ

の事が理解できないかもしれませんが。でも彼らが何十年経った時に、職員が言っていた言葉を思い出してくれたら、私達がやってきた事は、それだけで成功したのかなと思います。人間同士の付き合いは本当に奥の深いものだ、この仕事を通してつくづく思います。そして、私自身、彼らに助けられていることもありまして、お互いに成長できたらいいなと思います。



地域若者サポートステーション事業 とっとり・よなご若者 サポートステーション

総括コーディネーター
岡本 秀人

本年4月より、若者サポートステーションの総括コーディネーターを拝命いたしました。岡本秀人と申します。日頃より関係各位より沢山の支援を頂戴いたしており、誠に有難うございます。卒業ではございますが、この場をお借り致しまして御礼申し上げます。

弊所』とつとり・よなご若者サポート

ステーション』は厚生労働省と鳥取県の委託を受けまして、県内全域にて15歳〜39歳の若年無業者の方々の就労等の支援を実施しております。全国的な少子化の趨勢につきましてもは皆様方もご知のことと存じますが、いわゆる『若年無業者』の数につきましては(弊所支援対象の前記年齢層におきまして)、近年ほぼ横ばいの状況が続いています。平成29年度には全国で約72万人との推計値が公表されています(出典：総務省『労働力調査』)。全国175か所に開設されております『地域若者サポートステーション』におきましても、鳥取県下を管掌致します弊所におきましても、支援対象者の皆様方の就労・自立に向けた重要な責務を負っているものと認識致しているところで

す。今後この責務を果たすべく、社会的にも一層の精励が求められているものと願慮されるところで。弊法人の『愛』の精神を自覚し、ひとりでも多くの方々のお悩みや『夢』に接していき、ともに将来につき考えていく、そうした職務を今後も果たして参りたいと思料しております。さて、本年6月より『出前』講座と称しまして、県内各所へご要望を頂戴いたしました各団体様・事業者様へ、弊所の事業説明を実施させて頂く運びと

なりました。『若者サポートステーション』とは、どのような支援を実施している

所なのか』、広く皆様方にこの知賜る機会として企画させていただきました。弊所の実施しております、広くお悩みを聞かせて頂いたり自己を振り返る契機となる相談業務(キャリアカウンセリングや心理相談)、グループでの成功体験を得たり社会参画のきっかけとなるグループワーク活動、職業イメージの醸成に繋がる職場見学・体験等のプレジョブ活動、こうした事業の数々をご説明させて頂き、地域の皆様方と共に若い皆様方の支援に邁進する事が出来ればと考えております。こうした機会を通じ、皆様方からのお声やご意見を頂戴する事が出来ますならば有難く存じます。沢山のお申し込みをお待ち申し上げております。

末筆ながら、本年度も旧来に増して皆様方のご支援ご教示を賜りますならば幸甚に存じます。皆様方の弥栄を衷心より祈念申し上げる次第です。

職員自己紹介

◆とつとり若者サポートステーション



社会人基礎力開発支援員 谷口 希代美

こんにちは。本年度から、とつとり若者サポートステーションで働かせていただいている谷口希代美です。

入社して2週間過ぎたところで、まだ、ひよっこで、サポートスタッフと足並みが揃うよう日々努力している最中ですが、目標だけは大きいです。(笑)

私はこれまで、他機関において、挨拶で迎え、挨拶で見送る、そんな相談を心がけてきました。

最後に、「ありがと」って言われるように、信頼される相談員としてサポートで早く即戦力となるよう心がけていきたいと思えます。宜しくお願い致します。

◆よなご若者サポートステーション



心理カウンセラー 小椋 知嘉子

昨年11月より、よなご若者サポートステーションで、勤務させていただきました小椋知嘉子と申します。

サポートでの就労支援の仕事は、想像していたよりも難しいと、日々実感しておりますが、自分よりも若い方々とお会いできるのは、喜びの一つでもあります。お一人お一人のご縁を大切にしながら、支援していけるよう精一杯頑張りますので、どうぞ宜しくお願い致します。

鳥取養育研究所

学園のルーツを求めて

運営委員 鷲見 智明

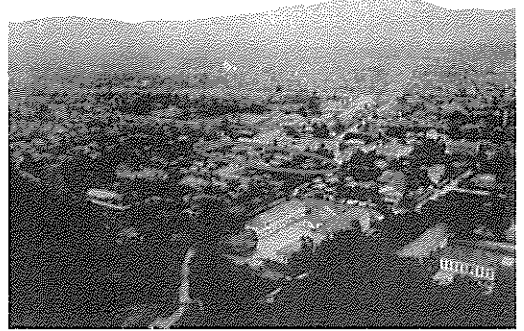
積雪も落ち着いた、ある良く晴れた日。大正時代のポストカードを携え、写真が撮影されたと思われる久松山五合目を目指します。登山道には残雪も多く、気を抜くと滑って怪我をしかねません。自分から吐き出される白い息の多さに、運動不足であることを思い知らされます。僕は今、鳥取こども学園が創設された地を探る旅をしています。

鳥取こども学園は、1906年1月13日鳥取育児院の名称で創設され、今年112周年を迎えました。鳥取こども学園の歩みは鳥取県の児童福祉の歩みでもあります。鳥取養育研究所では、鳥取こども学園がどのように成り立ってきたのかを探り、自分たちの立ち位置を確認し、将来進むべき道を歩んでいけるようにとの志で、2008年から残存する資料の整理を始めました。「研究者のための歴史」ではなく、「実践者のための歴史」として、実践に役立てることを目指して取り組んできているところです。資料整理を開始してから8年の歳月を経

た2016年4月、創設年から戦後占領期福祉改革終了の時期となる1952年までの現存資料のデジタル化を終えることができました。実践者である多くの職員の方々と共に進められたことを心より嬉しく思っております。

弾んだ息を整えながら、鳥取市内を眺めます。ポストカードと見比べると、街並みに変化はありましたが、鳥取城のお堀は今も昔も変わりがないようです。そのことを手掛かりに、現在の鳥取県庁の敷地内に当時の鳥取育児院が設立されていたことを知ることができました。

今年には資料整理を開始してから10年の節目の年となります。現在は、デジタル化を終えた資料を読み込んで学び「学園ルーツを学ぶ会」を年3回程開催しております。明治大正期、戦争の時代、戦後占領期の3区分に分け、明治大正期から取り組み始めているところです。現在の学園や施設と比べながら読み込んでいくことで、今を創っていくことへの一助になっていくことと思えます。どのような形になるかはわかりませんが、実践者の



皆様の役に立つ報告ができればと考えております。

下山後、県庁の片隅で櫻谿方面の山裾を眺め、もう一枚の写真と照らし合わせます。明治44年発行「財団法人鳥取育児院一版」に掲載されている鳥取育児院の写真です。山裾の形は、多少変化がみられるものの酷似していることがわかります。創設時、この場所で子どもたちの生活が営まれていたのです。当時の生活に思いを馳せると、子どもたちの笑顔が通り過ぎていったようにも感じられます。歴史が突然現実味を帯びてきます。当時のエピソードも生暖かいものに変わっていきます。学園のルーツを求めることは、自分自身のルーツを求めることとも言えるかもしれません。機会があれば是非訪れてみてはいかがでしょうか？

はまむら作業所

地域でいきるといふ事、地域で活動するといふ事

管理者 山岡 宏樹

私たちの法人の事業所は、地域の中に家を借りたり、建てたりし、日々を活動しています。対象は、小さな赤ちゃんや子供から大人まで、様々な方と広域で児童福祉や障がい福祉の事業活動をしています。

当の私達も平成24年より気高町に、地域の皆さま、土地所有者さんの御協力もあり、民家や土地をお借りし、知的障がい・精神障がい・身体障がいの方々と共に事業活動を続けさせてもらっています。豊かな自然と、心あたたかな方々の御支援の中、今年の春で7年目を迎える事ができました。毎日のあいさつ、日常会話、作業で作った野菜の販売、作業中の地域の先輩方の来客、余暇等の活動を一緒に実施、民生委員の方々とのお勉強会、先日参加させていただいた地域内の清掃活動、昨年初めて参加したお祭り。こうしてみると、少しずつですが、支援員も、はまむら作業所の利用者さんも地域との接点が増えているのを実感します。

開設当初より、「地域で地域の皆様と」「地域に貢献しながら」を大切にしていたのには理由があります。私たちの利用者さんの多くがそれぞれ地域と疎遠になりがちで、地域の中で活動する事自体が減ってきているからです。事情は様々ですが、こうした現状を何とかしたかった、就労をそれぞれ利用者さんが継続していく基礎は、日中の作業等訓練や利用者さん同士の交流だけでなく、地域の方との交流が有効だと当初から考えてきたからです。日々地域の方とお話し、地域の方々から学び・考え・悩んだり発見したりしながら活動する、わからない事は素直に聞く、時々感謝や謝るなど。当たり前の事と言えば当たり前の事ですが、意外と今日エネルギーをつかう行為になつて避けがちです。

それぞれの利用者さんがそれぞれの地域で就労と生活を継続していく事ができるよう「力」がつき、少しでも地域との接点が増え、「自己実現」ができるよう、私達はこれからもこの気高町で活動してまいります。

本年度、地域の皆様への感謝の気持ちをかたかたにできるよう、鳥取ごども学園の法人の応援も借りて地域活動を計画中です。平成30年度、就労継続支援B型事業、定員20名で気持ちも新たに活動してまいります、本年も「指導よろしく」お願いいたします。

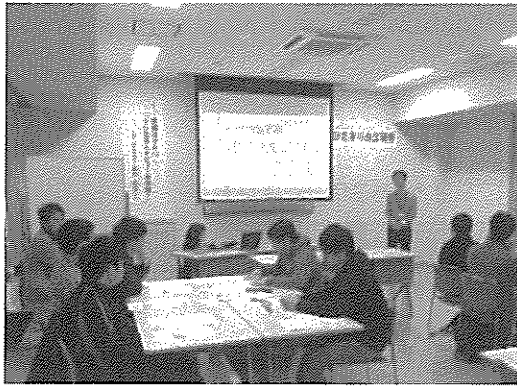
退所児童等アフターケア事業 ひだまり

開設10周年

就労支援員 山根 潤子

平成30年度、おかげさまでひだまりを開設させていただき10年目を迎えることができました。これもひとえに、関係機関の方々、地域の方々、法人内の方々のご支援ご協力励ましがあってのことだと深く感謝いたしております。

ひだまりは、鳥取県内の児童養護施設等を退所した方や、退所を控えた児童へ生活支援・就労支援・自立研修開催・施設出張訪問（キャリアアカウンセリング）



ひだまり自立研修

等を行っています。

ここで少し取り組みと今後について紹介させていただきます。

一つ目に、OB・OGのアフターケア支援（生活・就労）です。社会に出た後、生活面や就労面などで困ったことやトラブルに直面する機会が少なからずあります。長い付き合いの中で、自分の気持ちを素直に話せることができる場所として利用してくださる方もいますし、時に、元気な顔を見せてくれて次世代へ何かできることはないかと声をかけてくださる方もいます。

二つ目に、今年の1月、この春、就職を控えていた養護施設等入所中の学生向けに『準備はOK!? プレ社会人デビュー大作戦!』というタイトルで自立研修を開催しました。内容は、入社日を意識した自己紹介の練習・職場でのよくある失敗例（電話対応、上司・先輩の名前が覚えられない）をだし対策を話し合うワークショップ形式でした。参加者一人一人が自己紹介をする場面があり、緊張した面持ちの中、途中、言葉に詰まりシーンとなる空気が流れることもありましたが、しかし、誰一人あきらめることなく取り組んでいました。感想には、『学んだことを活かしたい』『失敗してもいいので挑戦したいと思った』『自分たちが考えて取り組めて良かった』といった内容がありました。4月に新社会人に

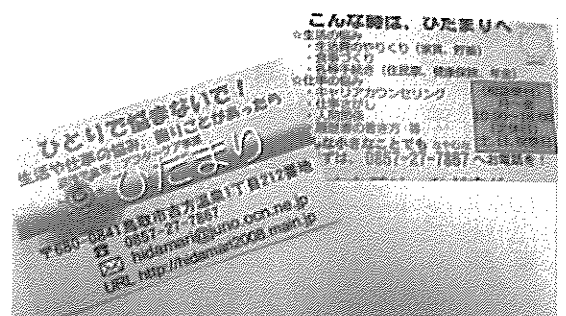


自助グループレインボーズ

なった方達がそれぞれのステージで活躍してくれることを願っています。

三つ目に、就職に伴う引越支援や鳥取県内の施設へ訪問させていただき高校生へのキャリアアカウンセリング（進路決定・就職に関わる不安）について面談を通して主体的に今後について考えることができるよう自己理解・職業理解の整理等を行いました。今年度は、さらに、鳥取県内全域に支援の幅を広げることになり、力をいれていきたいと考えています。

四つ目に、自助グループ（レインボーズ）の育成です。一時、代表者が海外で仕事をすることに伴い活動が年に一回程度と減った時期もありましたが、今年度は4月に20代前半のOBを四名仲間に加



ひだまりカード

わえ、若手育成のために自分たちが活動していく方向性を見つけていくことを話し合う会や場所の提供をしていきます。

その他、鳥取こども学園のこども祭りや光徳子供学園の子供祭りなどいろいろな機会に参加させていただくことを考えています。

これからも引き続き、鳥取県内全域を対象に、対処的な生活・就労支援を行うとともに、予防的な支援である、生活支援・就労支援（キャリアアカウンセリング）・自立研修開催等をおこなってまいります。

今後とも、施設のみならず関係機関の皆様、地域の皆様、協力をしてくださるすべての方々どうぞ、ご支援、ご協力をお願いいたします。

**当学園事業へのご寄付
後援会へのご加入に
感謝申し上げます。**

前回報告以降、現在まで、ご寄付いただいた方々、
後援会に賛同（会費納入）していただいた方々は、下記
のとおりです。心より感謝し、ご報告申し上げます。

寄 付 者 (H29.11.22 ~ H30.5.10)

敬省略

氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
齊藤光實	亀本良一	中嶋哲一	尾崎淑子
小原隆三	柴田和仁	鳥取南更生保護女性会 会長 小宮山富美子	尾崎信一郎
井上康夫	福寿みどり	長谷賢二	江谷孝明
河口欣微子	相見寿子	田村明長	宮本順子
富山佳代	下園裕一	林敬二郎	濱本英機
川口正男	熊谷和紀	(有)岩田小型運送	伊藤文代
竹下努	花木正史	山陰冷暖設備(株)	タグチレディースクリニック 田口俊章
八頭更生保護女性会	手皮小四郎	鳥取更生保護女性会 坂尻恭子	島崎美智子
東邦子	森本礼子	木村祐子	田中儀衛
西伯更生保護女性会 会長 瀬田洋子	柴田隆嗣	田中仲雄	新矢権夫
グロースの会	藤原毅芳	田中和子	田村裕子
田賀信平	斎藤禎一	山本博	桑村達也
(有)ワールドワン	日本基督教団 用瀬教会 牧師 稗田みどり	渡邊哲次	浜田素子
田村明子	湯村正仁	河田瑛子	杉村英子
綱島健之	鳥山玲子	尾崎三智子	荒尾雄二
松本勲	井口壬生	小原知子	(有)エフエムエルサービス 医療法人社団 かわぐち皮膚科
山根健太郎	川口明子	小竹原寛	鳥取みどり園保護者会
土江浜代	金田隆臣	高橋伊佐夫	岡田武
社会福祉法人 あけの星会	木本裕治	福嶋裕子	(有)家電のきのした 代表取締役 木下敏明
米里地区民生児童委員協議会	鳥取医療器(株) 代表取締役 玉木淳二	巻田豊	前田悦子
ホットほっとクラブ	藤内正樹	中島陽一	福永裕子
井上初恵	田中耕自	大塚元也	(株)アベ鳥取堂
山中友子	片村俊子	奥羽徳行	コールおもかげ 代表 寺坂圭子
田中佳代子	谷口尚子	春陽法律事務所 弁護士 石田文三	谷口敏明
山下孝子	谷口香与子	尾崎祥彦	岡村進・衣織
草野雅昭	伊澤亮逸	(株)トリベイ	吉田由美子
岩崎薫	高力房枝	中尾行雄	福田眞一
前田美喜子	中村艶子	雨河一就	藤野興一
横山房子	小宮山倫斌	若桜柿坂医院 柿坂紀武	鳥取商工会議所女性会 会長 浜村恵子
小谷祐司	小宮山紀子	いさみや商店	
賀須井長美	大森慧子	石田信夫	
河本充弘			
富山尚徳			

氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
加 藤 和 徳	村 上 収	小羊チャイルドセンター	谷 垣 由 紀 恵
尾 崎 美 幸	村 上 悦 子	小 羊 教 会	鈴 木 洋 平
伊 吹 啓 子	大 谷 恭 一	はやし社会保険労務士事務所	若 木 太 郎
社会福祉法人 あすなろ会	坂 根 政 代	林 義 雄	齋 藤 基 ・ 春 代
高 草 あ す な ろ	畑 山 博 史	広 谷 笑 子	浅 野 和 子
榎 直 子	(株) ル ー ト シ ー	笹 野 眞 紀	玉 木 敏 久
鳥取ワシントンホテルプラザ	代表取締役 小谷 裕雄	中 嶋 浩 治	浅 田 悦 子
西 田 淳	(株) 信 勝 丸 漁 業	前 田 利 男	松 原 雅 子
西 村 照 子	代表取締役 山岡 寛人	加 藤 敬 子	松 永 隆 夫
松 永 陽 明	中 川 正 道	大 源 真 美	盛 田 和 子
安 岡 弘 起	(株) ニ シ 才	前 田 俊 和	鳥取県労働者福祉協議会東部支部
医療法人社団 野津医院	鳥 取 友 の 会	尾 崎 か お る	支部長 大 竹 成 美
安 達 裕 見 子	松 原 千 恵 子	愛 知 県 立 大 学	田 村 昇
野 津 俊 哲	清 水 雅 彦	教育福祉学部 望月 彰	大 塚 福 子
正 林 督 章	愛 真 幼 稚 園	鳥取ライオンズクラブ	(有)赤山建築設計事務所
澤 末 春	3 H の 会	会長 黒 坂 幸 夫	常 田 享 詳
(有)堀 鍍 金 工 業 所	大 坪 千 恵 子	影 久 眞 智	(株) 鳥 取 銀 行
代表取締役 堀 いづみ	山陰酸素工業(株)鳥取支店	鳥取東更生保護女性会	池 田 喜 美 代
日本基督教団鳥取教会	房 安 強	会長 寺 谷 さくら	立川町五丁目二区町内会
近 藤 明	前田医院 前田 宏治	鳥 取 市 仏 教 会	北 村 優
井 上 裕 子	生 田 百 合 子	山 根 浩 子	米子信愛鍼治療院典
幾 野 裕 昭	西 尾 英 樹	下 田 貴 久	松 本 剛
濱 田 久 美	(特非) Living in Peace	日本基督教団 米子教会	岩 淵 明 美
山 根 茂	理事長 慎 泰 俊	山 本 義 幸	植 田 望
(株) ヤ マ ネ 機 材	前 嶋 佐 保	山 本 伸 子	酒 巻 佐 代 子
半 田 卓 実	(有) 葡 萄 冢	山 本 忍	中 島 素 美
中 山 健 二	(株)メモワールイナバ	スーメリー国岡なつみ	やまこう建設(株)
水 谷 昭 二	福 田 明 彦	内 藤 直 人	代表取締役社長 岡田幸一郎
海 藤 ひ ろ み	いしど歯科クリニック	(株)久松伊吹植物園	藤 井 重 明
下 石 義 忠	吉 田 由 喜 江	秋 崎 る り 子	木 村 友 子
井 上 仁 ・ 恭 子	尾 崎 建 彦	三 木 康 二	白 井 道 子
広 徳 寺	門 脇 佳 子	鳥 取 湖 陵 高 校	平 野 辰 郎
田 中 嘉 鶴 子	医療法人 岡本小児科医院	常 井 幹 生	橋 原 正 彦
国際ソロプチミスト鳥取	岡 本 賢	柴 田 崇 裕	松 田 悦 子
会長 井 上 恭 子	溝 口 好 美	田 中 あ か ね	山 本 静 彦
池 上 聡 一	八 村 輝 夫	リベット・ワン	広 岡 智 子
藤 井 喜 臣	(医) たなか小児科医院	米原電気管理事務所	丸 山 順 子
鳥取教会シオン会	(有) 錦 運 送	鳥取県教職員組合東部支部	増 田 千 尋
井 上 信 正	代表取締役 山下 教幸	砂 川 晋 治 ・ 真 理	無 名 氏

物 品 寄 付 者 (H29.11.21 ~ H30.5.10)

敬省略

氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
倉 元 麻 美 日本画グループ鳥 代表 白岡 文江	木 口 通 日 本 鏡 餅 組 合 理事長 樋 口 元 剛	福 田 義 二 鳥 取 県 中 小 企 業 団 体 中 央 会 親 睦 会	ガイア 広島 駅前 (株)安納スイーツファーム 農 業 生 産 法 人
小 宮 山 富 美 子 スリーパー鳥取店 全国シャンメリー協同組合	日 本 ベ ビ ー フ ー ド 協 会 事 務 局 長 土 橋 芳 和	フ ィ リ ッ プ モ リ ス ジ ャ パ ン 合 同 会 社	高 木 直 也 谷 口 隆 之 大 賀
大 樹 寺 福 田 養 蜂 場 鳥取市立宮ノ下小学校5年生	国 際 ソ ロ プ チ ミ ス ト 鳥 取 会 長 井 上 恭 子	(株) ヤ マ ネ 機 材 海 陽 亭 鳥 取 敬 愛 高 等 学 校 S ク ラ ブ	松 島 冷 子 松 永 隆 夫 (有)ダスカジャパン
石 井 朱 穂 ピ ン チ エ ー 口 岡 麻 理	田 原 コ ン サ ー ト 大 阪 事 務 所 浅 井 慶 紀 松 下 暢 子 イ オ ン 津 ノ 井 店	中 川 麻 里 (株)光琳グループ ホ ー ル デ ィ ン グ ス	と っ と り キ ル ト ク ラ ブ 谷 口 義 子 コ ン ト リ ビ ュ ー シ ョ ン の 会
U F O 秋 里 店 U F O 吉 方 店 U F O 扇 町 店 U F O 宮 長 店 U F O 安 長 店	(株)竹中工務店鳥取営業所 竹中工務店安全協力会 中 村 艶 子 立 川 町 五 丁 目 二 区 町 内 会 山 陰 中 央 新 報 社	井 上 信 正 鳥 取 鶏 卵 販 売 (株) 安 藤 友 久 木 下 ・ 大 石 法 律 事 務 所 エ フ ピ コ 上 田 (株)鳥取支店	清 水 由 紀 子 矢 部 友 理 子 清 水 栄 子 大 和 建 設 (株)
斎 藤 正 七 郎 銀 杏 惇 志 鳥取市立修立小学校	楽 天 (株) 楽 天 サ ン タ プ ロ ジ ェ ク ト 福 田 眞 袋 川 を は ぐ く む 会 会 長 粟 嶋 道 和	岸 本 幸 平 野 薬 店 山 本 静 彦 大 坪 法 子 ・ 小 谷 辰 男	坂 田 剛 一 生 協 病 院 齋 藤 基 尾 崎 悦 子 江 崎 グ リ コ (株)営 業 本 部 中 四 国 販 売 計 画 室
小 谷 禎 男 岩 本 純 子 今 井 書 店	萩 野 博 光 鳥 取 更 生 保 護 女 性 会	毎 日 新 聞 社 恵 野 倉 社 恵 市 谷 年 弘	前 場 五 朗 無 名 氏

●寄付金は下記へお願いします

法人本部：〒680-0061 鳥取市立川町5丁目417番地 鳥取こども学園内

TEL 0857-22-4206 FAX 0857-23-0242

振込口座：郵便振替 01490-9-9106

鳥取銀行本店営業部

普通預金 7645611

山陰合同銀行鳥取営業部

普通預金 3422812

口座名義：社会福祉法人鳥取こども学園

理事長 藤野 興一

※なお、郵便振替は寄付金・後援会費共通口座となっておりますので、寄付金・後援会費のどちらかに○をしてご入金ください。

●後援会会費は下記へお願いします

振込口座：鳥取銀行本店営業部

普通預金 0405970

口座名義：鳥取こども学園後援会

会長 村上 亜由美

【お願い】

この「学園だより」は、当法人にご理解、ご協力いただいている皆さまに、施設での出来事、様子等を報告する意味で発行しています。

同封しています寄付金・会費の振込み用紙は、あくまでも皆さまの便宜を考えてのことですので、ご理解いただきますようお願い致します。

今後とも、当法人を温かく見守って下さいますよう、心よりお願い申し上げます。